

野党共闘と市民の共同選挙で、安倍政権の暴走に終止符を打ち、 憲法9条改悪を止める歴史的な衆院選の勝利をめざすアピール

2017年10月10日 連帯兵庫みなせん

党利党略、国会までも私物化した安倍首相により無理やり解散させられた衆議院の選挙が、いよいよ始まりました。

首相の解散表明と同時に小池新党（希望の党）の出現や、野党第一党の民進党の解党と分裂、さらには民進党リベラル勢力による立憲民主党の結党など、この選挙はかつてない展開になりました。何よりも注目すべきは、昨年の参院選に続いて、野党共闘による候補者の一本化が市民の強い働きかけで続々と成立し、野党と市民の共闘による選挙展開になっていることも、衆院選の歴史では初めてのことです。国政選挙に市民団体が大きく関与する、新しい政治の季節が始まったとも言えます。

全国ほとんどの都道府県で市民連合など市民団体が野党候補の一本化を求めて、政党の共闘体制を促し、野党統一候補が生まれています。

兵庫県では、昨年2月、参院選を前にして発足した「連帯兵庫みなせん」が野党5党の兵庫県組織の代表者と毎月1回程度のペースで協議の場を持ち、参院選の後も衆院選12選挙区の候補者一本化をめざした協議を重ねてきました。並行して各選挙区では「地域みなせん」が候補予定者との政策のすり合わせや話し合いの場を重ねて、候補予定者が現場レベルでも統一候補の必要性を共有し、市民団体との絆を深めてきました。

この結果、公示前までに9区（新社会党の菊地憲之氏）8区（共産党の堀内照文氏）6区（立憲民主党の桜井周氏）7区（共産党の上田さち子氏）3区（共産党の富士谷香恵子氏）の5つの選挙区で、野党と市民の統一候補が成立しました。

他の選挙区では、民進党の分裂の影響も受けて本来は一本化が可能であった複数以上の選挙区で不調に終わるなど、残念な面はありますが、連帯兵庫みなせんとして選挙区で取り組む市民や団体が居ない、または連携できていない11区と12区を除いて10選挙区のうち、半分の選挙区で統一候補を成立できたことは画期的なことだと考えています。

今回の選挙は、安倍政権の暴走を止め、この政権の継続に終止符を打って、憲法9条の改悪などこの国の将来を大きな危険に導く道筋を変える、極めて重要な選挙です。選挙直前になって立ち上げられた希望の党は、安倍政権と与党勢力を補完する危険な新党だと、私たちは認識します。従前から安倍政権の補完的な役割を演じてきた日本維新の会とともに、政界の右翼的再編をねらう勢力として、断じて組みすることはできません。

この選挙を通じて、立憲民主党、社民党、共産党さらに兵庫県では新社会党と緑の党などの野党との連携を強めるとともに、同じ思いを持ちながらも解党後に政党所属で揺れ動きながら無所属で立候補した候補とも連携し、安倍政権を追い詰め、改憲勢力に議席の3分の2を占めさせないように、選挙戦に関わっていきたいと考えます。

有権者・市民のみなさん。いま、安倍政権の暴走にストップをかけないと、私たちの未来はもちろん、孫子の世代に大きな禍根を残すことになりかねません。森友・加計学園問題で見せつけられた、安倍政権による政治と国家の私物化を続けさせるわけにはいきません。すでに出口の見えない破綻状態をつくりだしているアベノミクスという経済政策をこれ以上続けると、この国の経済と暮らしは取り返しのつかない事態ももたらしかねません。

格差と貧困をなくし、子どもと若者、女性が希望を持てる国へ変えていくのかどうか。食料自給率を向上させ、再生可能なエネルギーの国へ転換させる岐路に立っています。再び戦争の惨禍をもたらすことなく、民主主義と立憲主義を貫く国へ変えていくためにも、大事な選挙です。閉塞状態の政治と経済に諦めることなく、政治の現状と未来を見つめて、こぞって投票に行き、一票を行使しましょう。

連帯兵庫みなせん（平和と立憲主義、いのちと暮らしを守る市民選挙・連帯兵庫）